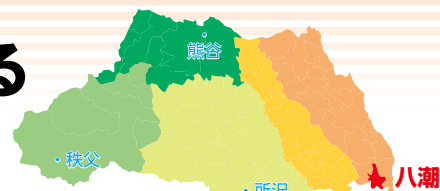


イチ押し

地域経済の活性化を語る

県内首長に聞く リレーインタビュー④

八潮市 大山 忍 市長 (56歳)



「住みやすさナンバーワンのまち」を目指す大山 忍市長

「まちづくり」を支える「人づくり」

私は市長に就任以来、「安全・安心」をすべての政策の柱に据え、「共生」「協働」の理念のもと、「埼玉一の良い教育の実現」、「子育て、福祉、医療の充実」「地元産業育成・農商工振興」「防犯・防災・治水・交通網整備、快適なまちづくり」「行財政改革の推進」という5つの政策を基本に、「住みやすさナンバーワンのまち」を目指しています。

この5本の柱もそれぞれ別の方向を目指しているわけではなく、互いに連携し、かつその根底で「安全・安心」「住みやすさ」というキーワードでつながっています。このことを前提に、八潮市の経済活性化策を含めた諸々の施策について、とくに力を入れているものを例にあげながらお話をしていきたいと思えます。

はじめに、まちづくりにおいて、なによりも大切にすべきことは人づくりです。実は、八潮市が教育とっているものは、子ども、青少年に向けたものだけではありません。各世代に対して多彩な教育環境を整えるべく努めております。

まず、次代を担う子どもたちへの施策では、

幼保との連携や、小中一貫教育のさらなる充実を図ること、また、義務教育の課程とは違うプログラムを作ることなどで、子どもたちをバックアップしていきたいと考えています。

たとえば、平成26年度からは、「子ども大学」の設立に向けた準備が始まります。子ども大学とは、大学生と小中学生との交流を通じて、学習意欲、職業観を含めたキャリア教育に役立てるものです。

またシルバー世代のみなさんには、市民大学、市民大学院、というものをすでに用意しています。市民大学で、もう一度地域の問題、地域の課題、それから自分が地域の中で活動してみたいというメニューを見つけて勉強していただき、地域のリーダーとして活躍してくださることを期待しています。

農商工連携を支援して地元産業を活性化

次は、産業振興策についてお話しします。当市では、地元産業と農商工振興には、とくに力を入れています。

農業については、もともと八潮は、農業の盛んなまちでした。小松菜、枝豆などの特産品があり、いまでも築地や大田などの市場では高く評価されています。市街化が進み、農地の減少は避けられませんが、平成25年度には都市農業振興基本計画を立ち上げ、6次産業化や農商工連携のイベントを通じて、八潮産の小松菜や枝豆の加工品を販売するなど、新しい農業の取組みも行っています。これからも都市農業を支えていきたいと考えています。

工業については、八潮には、県内でも3本の指に入るほど多くの事業所が居を構えているのが特徴で、技術力も他にひけをとりません。しかし、規模として中小企業の事業所が多いため、リーマンショック後の厳しい経済状況を経て、後継者不足などで事業の継続や資金調達に苦労している事業所が数多くあ

ります。

市としては、こうした事業所に対して、独自の融資枠を設けてバックアップしています。小口融資や近代化融資では、利子補給率を通常の30%から50%に引き上げ、不況対策融資に対しても、事業者が埼玉県信用保証協会に支払う信用保証料の全額相当分を補助しています（26年度も継続）。

加えて市民のみなさんにもご好評をいただいているのが、住宅改修補助事業です。市内の事業者リフォームの工事を発注するのを条件に費用の一部を補助する制度で（上限額10万円）、多くの方にご利用いただいています。

子どもも大人も呼び込む「水辺の楽校」

農産品、工業品ともに、個々に評価が高い一方で、それが「八潮」全体の名前に結びついていないのが大変残念なところです。

商業については、近郊の大型ショッピングセンターの影響があるのは否めません。これに対処すべく八潮市では、お店に必ずひとつは、他店に負けない魅力ある商品を持つという「一店逸品運動」を提唱しています。

農産品ならこれ、工業品ならこれ、商店の品物ならこれ、というものを作り、「八潮ブランド」を確立して、外へ向けて発信していきたいと考えています。

観光面では、「やしお市民まつり」、「八潮夜市」と並び、中川河川敷にあるフラワーパークで毎年3月に開かれる「花桃まつり」が当市の一大イベントです。期間中には、たくさんの観光客が訪れ、今年は延べ3万1千人を数えました。今後さらなる観光振興を図

八潮市の概要

人口（平成22年国勢調査）	82,977人
世帯数（同上）	32,467世帯
平均年齢（同上）	42.6歳
生産年齢人口比率（同上）	66.5%
面積（同上）	18.03平方キロメートル
名目市内総生産（平成22年度市町村民経済計算）	3,029億2,600万円
事業所数（平成24年工場統計）	648事業所
製造品出荷額等（同上）	3,349億1,593万円
事業所数（平成24年経済センサス）	4,641事業所
年間商品販売数（平成19年商業統計）	2,246億6,355万円



フラワーパーク隣接地に建設予定の「水辺の楽校」（構想図）



フラワーパークで3月に開催された「花桃まつり」

るべく、その隣接地に、「水辺の楽校」（図上）という観光スポットになり得る施設を国土交通省と連携し、整備することになりました。子どもたちは水辺に親しみ、大人たちは健康的に水辺を散策できる施設です。すでに関係団体と完成後の運営方法について検討を進めていまして、市内外からの多くの方に利用していただけるものと期待しています。

潜在的なパワーを秘めたまち「八潮」

八潮は、これから大きく変わっていく、魅力がいっぱい詰まったまちです。子どもからお年寄り、企業が持つ、「こういうまちを作っていこう」というベクトルをひとつにまとめることができれば、ものすごいパワーの出せるまちだと思っています。

さて、今回は、埼玉県議会議員時代に苦楽をともにした、小島進深谷市長にバトンを手渡したいと思います。